沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース　1月号

2018 年 1 月 1 日発行

事務局：大浜第一病院
〒902-8571　那覇市天久 1000 番地
TEL　（098）866 - 5171
FAX　（098）864 - 1874
E-mail　t-matayosi@ns.omotokai.jp
編　集：中村　海由　（ 牧港中央病院）

研修参加報告

平成30年度医療ソーシャルワーカーリーダーシップ研修

平成30年11月19日～11月21日

公立久米島病院　地域連携室　新垣　美鈴

埼玉県で開催された本研修は 2 泊 3 日で、各都道府県から実務経験 10 年以上の 48 名の参加者で講義やグループディスカッションが行われました。

研修の内容はソーシャルワークの定義や価値と倫理、スーパービジョン等の基礎から、身元保証人問題、アルコール健康障害対策基本法に期待されるソーシャルワーカーの役割、リスクマネジメント、医療現場を変えるプロジェクトの計画と実行など、現場でリーダーシップを発揮し、ミクロレベルからメゾ、マクロのソーシャルワークの展開ができるような自己研鑽の方法等、幅広く濃厚でした。

印象深いのは、「身元保証人問題へのソーシャルワーク」でした。私は、身元保証人問題は病院の管理上のものであり、MSW にとっては推定代理意思を示せる関係者がいるかということが大事ではないか、なぜ身元保証人なのだと疑問に思っていたので目からうろこだったのです。なんと、県外では身元保証人がいないことで医療が受けられないことがあるそうです‼ ん？沖縄県でそのような病院があったかな？と考え直してみたところ、どうやら私は「病院＝急性期」という固定観念があったようで、確かに回復期リハ病棟や療養病棟に紹介するとき、身元保証人がいないという理由で断られたことが多くあることを改めて思い起しました。それが患者にとっての医療を受ける機会の損失につながっているということを気づけず、医療を受ける権利とは急性期医療に留まらず、各病期において適切な医療を受けるということであると分かっていませんでした。日頃、転院調整（転入も転出も）をただの作業として行い、権利擁護の観点が抜け落ちていたと気づき、身につまされる思いでした。MSW のみなさん、改めて医療を受ける権利について考えてみませんか。身元保証人がいてもいなくても適切な医療が受けられる沖縄県を MSW の結束で実現できるといいなと思います。

他県の方々との交流もとても盛り上がり大満足の研修でした。

CONTENTS

研修報告①・・・・・・・・・・1
研修報告②・・・・・・・・・・2
研修報告③・・・・・・・・・・3
中部圏域報告・・・・・・・・・4
自主勉強会報告・・・・・・・・5
新入会員紹介・・・・・・・・・6
部会からのお知らせ・・・7～10
理事会議事録・・・・・・・11～13
はいさいワーク・・・・・・・・14
編集後記・・・・・・・・・・・14

九州医療ソーシャルワーカー協議会中堅者研修

平成30年11月25日

大浜第一病院　地域医療連携センター医療福祉課　當銘由香

---

11 月 25 日（日）に那覇市立病院にて開催された上記研修会へ参加した。
「ソーシャルワーカーによる退院における実践の自己評価」と題し、日本社会事業大学の小原真知子先生による講義とグループワークを行う一日研修でした。
前半の講義では実践の自己評価の必要性について考え、ソーシャルワーカーによる退院支援の意義について、社会情勢やシステムから見た視点と評価の構造などについて学んだ。
また、なぜ自己評価が必要なのか？ソーシャルワーカーは退院支援に何を期待されているか？ということについてアウトカム評価とプロセス評価に分けて説明してもらい、何を目指して何を行うかということについて可視化することの重要性について理解することが出来た。
今回の研修で、普段の支援を振り返り、可視化することをワークで学び、普段いかに無意識に支援を遂行していたかということが良く分かり反省しきりであった。
ソーシャルワーカーとして退院支援ではアウトカムとプロセスを認識することが重要で、ミクロの視点の患者家族のみならず、そこから病院、地域、社会にも波及し働きかけを行っているということを意識することの必要性に気づかされ、普段の業務で一番割合が高い「退院支援」の奥深さを改めて発見する機会となった。
さらに専門職として、私達 MSW の支援の目指すところをきちんと他の専門職へ提示する必要があり、その支援の成果も提示する必要があるため、エビデンスを提示するためのツールとして今回の評価表を活用することができると思いました。
今後職場の部署内で今回の自己評価のツールを活用し、実践の振り返りと後輩育成、自己評価に活かして専門職としての意識を高めて行きたいと思います。

H30 年度　沖縄県入退院支援連携デザイン研修事業
在宅医療・介護連携に係る事例検討意見交換会＜共通研修Ⅱ＞に参加して

平成 30 年 12 月 8 日

大浜第二病院　　安慶名真樹

平成 30 年 12 月 8 日（土）に、富樫八郎先生を講師に行われたデザイン研修に参加したので報告します。

研修前半は「援助者としての基本的視点～専門職としての役割認識、守るべき価値・倫理について～」講義をいただきました。アメリカで分野別SW団体の統合により全米ソーシャルワーカー協会が結成された歴史をはじめ、アメリカの病院で長年ソーシャルワーカーとして活躍し、シモンズ大学でソーシャルワーク教育にあたった、シモンズ・バートレットによる専門職とはについて学びました。バートレットによると専門職の構成要素は「価値・知識・技術」ではなく「価値・知識・介入（方法・技法）」を身につけたものであり、「知識」と「価値」は「方法」よりも優位にあり、「知識」「価値」は「方法・技法を規定する」こと。「方法」であるケースワーク・グループワーク・コミュニティーワークは、アメリカでは 1984 年以前の表現であり、現在はソーシャルワークと位置づけし、ソーシャルワークの対象がミクロ（個人・家族・小集団）・メゾ（施設・病院・地域）・マクロ（福祉行政等）と捉え、心理・社会的アプローチをはじめとする各種実践アプローチを方法として介入していることを整理し学ぶことが出来ました。各専門職種にも倫理があり、知識を必要とし、介入技法がある点では共通していることを認識しました。

研修後半の「統合的アセスメントの視点、問題の理解～人々が社会資源を活用できるように支援することについて～」では、バートレットが体系立てた生活課題と対処能力について学びました。人々の対処能力（生きる力）が一時的に低下している時は、現実認識能力や対人関係能力、自尊感情が低下しているためにI. Cをしても病気の理解が十分できなかったり、攻撃的になったり悲観的になったりするために、私たち支援者は対処能力をきちんとアセスメントして介入しなければならない事や、支援者自身の対処能力も揺らいでいないか確認する必要がある事を学びました。社会資源には、フォーマル（家族・親族・友人・近隣等）、インフォーマル（自助団体等）、社会的な資源（学校・病院・制度等）があり、クライエントがどのように関係しているか、エコシステム視座（ジェノグラム+エコマップ）で確認しながらアセスメントすること、社会的な資源である介護保険制度や年金制度の案内ばかりに終始せず、インフォーマルな資源の不足があればその調整にも対応する必要があることを、あらためて整理することが出来ました。

歯科医師、栄養士、薬剤師、ケアマネ、ST等、多様な職種が入り混じった研修の中で、ソーシャルワークの視点で「支援者するとは」ということを学びましたが、クライエントを尊重することが各職種の根底に共通してあるので、参加者全員が最後まで「うん、うん」とうなずける研修になりました。アンケートでも援助者としての基本的視点についてとても勉強になったという声が多かったです。「感情ではなく理論でおさえないとプロ（専門職）じゃない」という富樫先生のことばが改めて心に刺さりました。仕事をこなすように患者と向き合っていないか、あらためて振り返る機会になりました。勉強不足を反省し、今後も日々学んでいきたいと思います。

在宅医療・介護連携（中部圏域）報告

中部圏域医療介護連携について

平成 30 年 12 月 5 日

中頭病院　医療相談室　秦　克之

現在医療介護連携では様々な事業が進んでいますが、参加している主な進行状況をお伝えします。

沖縄市の医療介護連携事業について

沖縄市の課題に一つとして高齢者の救急搬送が増えているという現状があります。
その要因として施設からの救急搬送が多いのではという見解に基づき。
（実際に施設の増加数と高齢者の搬送数が正比例していました。）
医療介護、多職種連携会議では、各施設の方を及びして、施設看取りについて勉強会を行い市民については看取りを考えてもらう意味で、自分の最後をどのように過ごしたいのか考えていただく、講演を企画し実施しました。

うるま市の医療介護連携事業について

うるま市は前年度、専門職が考える在宅看取り支援と地域の自治体が考える看取り支援について見解が異なるのではという視点に基づき、インタビューを元に市民向け講座や多職種連携会議を開催しました。今年度は視点を施設に向けて施設で考える看取りや施設内でどのような方を支援でき、どのような方が困っているのかアンケートで分析しました。またその分析を元に施設へのインタビューを実施しています。その内容結果を元にどのように施設との連携を行ってくのか多職種連携会議を計画中です。
また市民向け講座では、老年医学とエンディングノートの記載について講演会を企画しています。

恩納村・宜野座村・金武町の医療介護連携事業について

中部北圏域では、看取りを中心とした研修が前年度も多かったため今年度は地域力をあげるための研修を行う必要があるのではという見解から、市民向け講座を各町村で行うことになりました。恩納村金武町はシナリオを作成し各村町祭りで医療と介護の寸劇を行いました。
多職種会議は認知症の方を地域でどう見守る体制をつくるのか公開での多職種連携会議を企画中です。

自主勉強会報告

OGSV（奥川グループスーパービジョン）報告

平成30年12月24日

那覇市立病院　樋口美智子

12月の定例勉強会では、沖縄県が公益社団法人沖縄県理学療法士協会に委託して12月24日に開催する「多職種コンソーシアム実践研修会」参加者の事前学習を行いました。

この研修会の目的は、市町村及び地域包括支援センターが実施する地域ケア個別会議を構成する専門職及びこれを支える専門職団体が自らの役割を確認する機会とするとともに、各専門職団体において自らが実施する研修プログラムにフィードバックできる機会となるように企画・運営を行うものです。また、この事業は、市町村及び地域包括支援センターが、地域ケア個別会議での専門職の役割と機能を再確認できる機会となるものです。

今回はPT・OT・ST・CM・薬剤師・歯科衛生士・栄養士・MSW の団体から複数名が参加し、下記のような視点で、各専門職による多角的アセスメントをモデル事例で行い、「専門職における役割の明確化と普遍化に向けて」ワークを行います。

・ケアマネジメントの標準化
・疾患別ケアマネジメントの展開
・利用者の自立支援・重度化防止
・地域資源の有効活用

研修会当日は市町村や地域包括支援センター職員がオーディエンスになり、各職種代表者による模擬地域ケア個別会議が繰り広げられます。

事前学習では、モデル事例を使って MSW からの確認内容や助言内容について意見を出し合い整理を行いました。例えば「67歳、男性、要介護3、脳出血・糖尿病性網膜症・独居、一人暮らしで糖尿病が悪化している中で、本人が望む生活を模索している事例」。さて、CM や地域包括支援センターの社会福祉士とは違う MSW の視点やアセスメントとは何だろう？各人が頭をフル回転させ、学びや実践で得た価値・倫理を元に話し合いました。利用者の生活課題や対処能力は？傷病の受容はできているのだろうか？自尊感情は？環境の応答性は？等々、喧々囂々、とても充実した学習会でした。研修会当日はライブですので、どんな模擬会議になるかとても楽しみです！

新入会員紹介

中頭病院　医療相談室　　高良　綾

初めまして。中頭病院入職 1 年半経ちました高良と申します。本年度より協会会員となりました。

業務は多忙で日々状況が目まぐるしく変化する中、医療ソーシャルワーカーが病院組織・地域社会・患者さんからどのように必要とされ、求められた役割に対してどのように行動し責任を果たさなければいけないのか、未だにさっぱりもってわかりません。しかし、なんだか充実した日々を過ごさせて頂いていると感じてしまいます。多種多様な考え方があるなかで患者さんを中心に多職種と関わることで私自身の視野が広がっているのかもしれません。まだまだ至らない事が多い為、日々小言を言いながらでも我武者羅に走り続けたいと思っております。

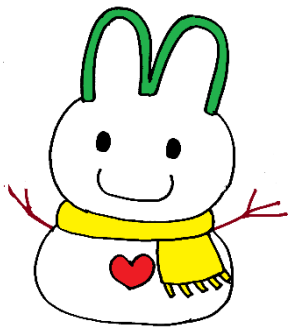
今後とも宜しくお願い致します。

新入会員紹介

沖縄協同病院　饒波　武之

平成 30 年 4 月より、沖縄協同病院地域連携課に配属になりました“饒波（のは）　武之（たけゆき）”です。10 年近く、包括支援センターにて社会福祉士職として従事しておりました。医療機関での経験はなく、毎日新たなことにチャレンジしている状態で緊張の毎日ではありますが、周囲に支えられながら充実した日々を送っています。

これまでは、本人に寄り添い、地域で暮らしていくために何が必要なのかを時間をかけながらアセスメントし、実現に向けて計画していく、PDCAサイクルでの支援をおこなっておりました。しかし、現在、急性期病棟で仕事をしている私にとって今までのように寄り添うことが難しく、十分なアセスメントができていないことにジレンマを感じております。地域と共に歩んでいくこれからの医療機関の役割を考慮しながら、自身の経験をどのように活かせていけるのか悩ましい日々でもあります。



部会からのお知らせ

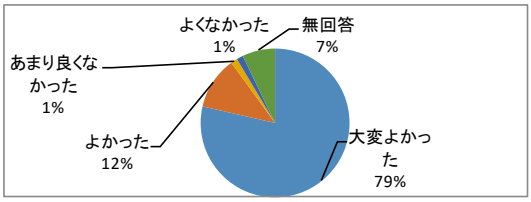
第55回九州医療ソーシャルワーカー研修会おきなわ大会　アンケート集計結果

日時：平成30年11月23日（金祝）・24日（土）
アンケート回答者　：　70人
大会参加者：　171人

Q1　大会プログラムについてお聞きします。

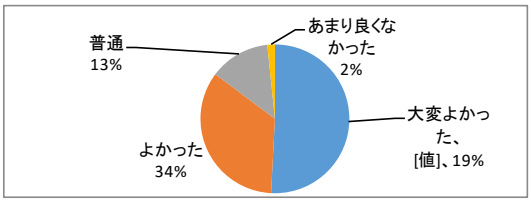
①　30周年記念講演：平田大一氏「感動体験で自分が変わる！地域が変わる！～キムタカ！奇跡の舞台の舞台裏」

5	大変よかった	55
4	よかった	8
3	普通	0
2	あまり良くなかった	1
1	よくなかった	1
9	無回答	5
	合計	70



②　基調講演：安藤由美氏「現代日本社会における脱家族化とその帰結」

5	大変よかった	31
4	よかった	21
3	普通	8
2	あまり良くなかった	1
1	よくなかった	0
9	無回答	9
	合計	70



おきなわ大会実行委員会

参加者のアンケート結果の一部ご報告

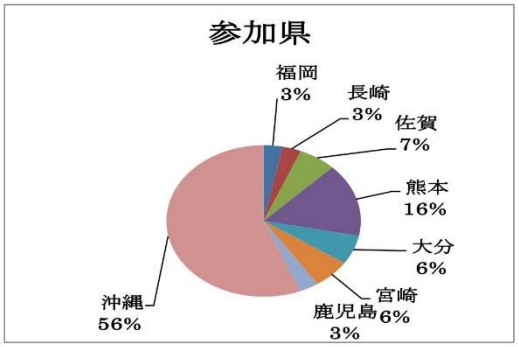
講演については８割以上の方がよかったと回答されていました。また、自由記述には「パワーをもらった」「有意義だった」「笑いあり、学びありの良い研修だった」という多数のご意見の中、「研究発表の水準向上」という新たな課題となるご意見もいただきました。大会全体を通して実り多き研修だったと思います。

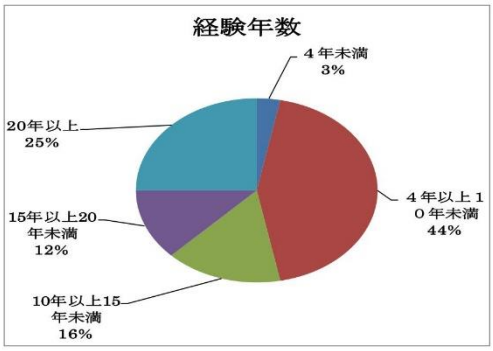
九州医療ソーシャルワーカー協議会　中堅者研修　報告

報告者　香村真範（北中城若松病院）

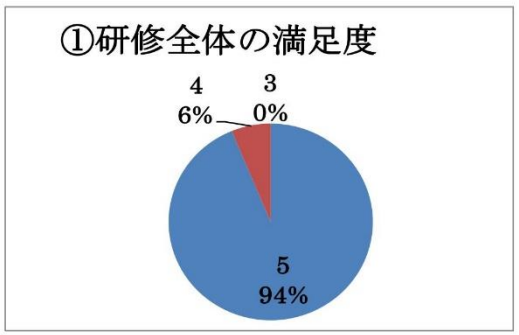
おきなわ大会の翌日、平成３０年１１月２５日（日）に、九州・沖縄の中堅ＭＳＷが集い、日本社会事業大学社会福祉学部教授の小原眞知子先生をお招きし、「ソーシャルワーカーによる退院における実践の自己評価（中堅者編）」というテーマで開催しました。
下記、アンケート集計を行いましたので一部をご報告いたします。

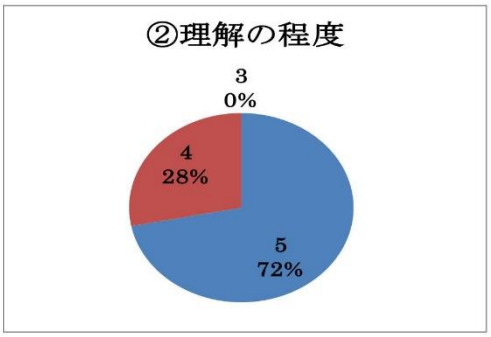
参加者　　３４名（研修部含む）　　回収数　３２　　回収率　９４％

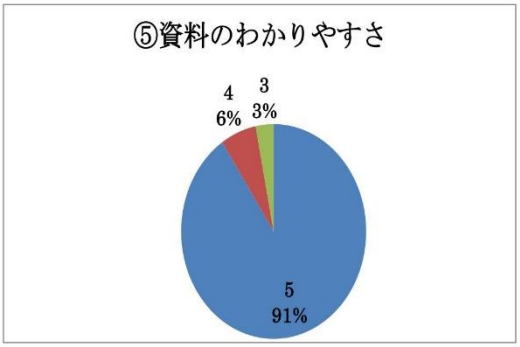


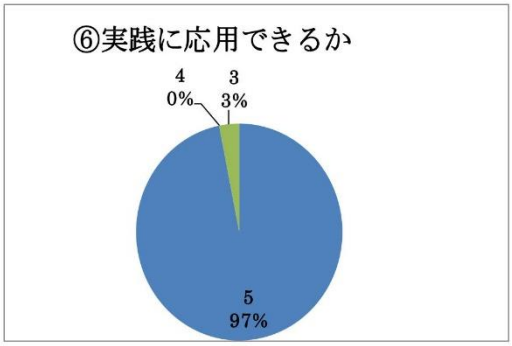


問）満足度調査（　５満足　⇔　不満１　）









問）**研修について具体的な感想・意見。**

・最後まで参加できず残念でした（飛行機の都合で）

・明日からの実践に結びつく研修でした。

・難しいテーマであるものの、わかりやすく学ばせていただきました。

・MSWとして、プロとして多職種や地域にアピールできるよう自己評価していきたい

・自己評価することで、ミクロ・メゾ・マクロレベルで実践が繋がっていること

・専門性を知り、より良い支援ができるよう多職種協同が大切だと認識した

・理論を意識しながら実践に取り組むこと

・アウトカムまでワークできるとよかったです（時間的に難しかったかな）

・小原先生、研修部のみなさん、ありがとうございました！

・ワークで自分の気づかない点も発見できました

・業務に追われる日々で評価までできていませんでした。部署にもどり行ってみたいと思います。

・多くの学びがあり明日からの実践に活かして生きたと思います。

・難しい内容でしたがワークすることで理解が深まりました

・看護師と同じ部署が故に MSW の専門性を意識することの大切さを再認識しました。

・プロセスとアウトカムを意識化して可視化することが有意義でした

・明日の業務から意識できること、取り組める内容の研修になりました。

・モチベーションがあがりました。

・4時間のコンパクトな時間で自己評価について概論を理解することができました。

・SWの自己肯定刊があがるスーパービジョンの場でもありました。

・漠然としていたものがしっかり理解できました。

・各 SW の資質の均一化も図れるツールだと感じました

・気づきが多く感銘を受けました。定期的にやることでより実践で活かせるまでになるといいなと感じた。

・新人からでもスーパービジョンとして使える便利なツールだと感じました。

研修の目的として、①ソーシャルワーカーが自己評価の方法を理解すること。②現場の人材育成の場面や自己の成長のために活用できること。を大きなテーマとしました。

また、このような指標を活用することで、実践力を高めてほしい！という小原先生の熱い思い、そして、医療機関に私たちＭＳＷがいる存在意義も改めて感じることができた研修になったかと思います。

最後に、会場の提供をいただきました那覇市立病院さん、運営協力を担ってくれた県協会研修部の皆さん、そして、大会から数えて３日間という長丁場にも関わらず参加してくださった皆さん、本当にありがとうございました！

◆めだかの学校（おおむね経験年数３年未満）

テーマ	※未定　（開催する際は担当より連絡が行きます）
日時	
会場	
参加費	無料
問い合わせ	大浜第二病院　医療福祉課　謝敷

◆めだかのホームルーム（おおむね経験年数3年以上）

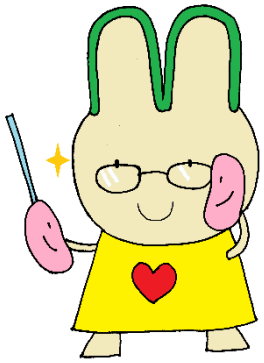
テーマ	地域包括ケア病棟の事例
日時	H３１年１月１６日（水）　１９：００～
会場	小禄病院
参加費	無料（飲食代１００円）
問い合わせ	沖縄協同病院　地域連携課　松永

◆めだかの放課後（経験年数５年以上）

テーマ	※調整中
日時	H31年　月　日（木）19:00～
会場	中頭病院
参加費	無料（飲食代200円）
問い合わせ	大浜第二病院　医療福祉課　當銘

◆ＯＧＳＶ

テーマ	スーパーバイザー育成研修参加報告 ソーシャルワーク学会予演会（予定）
日時	平成31年1月9日（水）18:30～20:00
会場	那覇市立病院
参加費	無料
問い合わせ	那覇市立病院　樋口



12月理事運営会議録

平成３０年１２月１７日（月）１８：３０-２１：００

場所：県総合福祉センター

【参加者】樋口会長、新垣副会長、當銘、安慶名、伊禮、長、秦、望月（記録）

【欠席者】又吉、石郷岡、大城、奥平、香村、仲地、山城、（欠席；委任有）

【各部報告】

１．研修部

・九州医療ソーシャルワーカー協議会中堅者研修報告

参加者の半数が沖縄県であり、日曜日開催で飛行機の問題があったと考える

研修内容は、参加者の意見は良好であり、満足度も高かった

収支決算報告：黒字分の使途については理事会で協議

⇒おきなわ大会に充当で承認

・めだかの学校

→１月調整中にて広報誌には間に合う予定

２月に事例作成の勉強会開催予定にて講師と日程の選定依頼

・めだかのホームルーム

→１月

1/16（水）19:00　場所：小録病院　テーマ：地域包括ケア病棟の事例

・めだかの放課後

→１月調整中　場所：中頭病院　テーマ：未定

・ＯＧＳＶ

→１月

1/9（水）18：30～　場所：那覇市立病院

テーマ：スーパーバイザー育成研修参加報告

ソーシャルワーク学会予演会（予定）

・県協会主催の中堅者研修平成 29 年度、30 年度の認定ポイント届き受講者へ交付済

２．広報部

・はいさいワークの管理方法

広報部部長決済での掲載でよいか協議

メーリングリストでの共有方法と理事会での確認方法を次回理事会で決定

・各病院の求人がいくつか届いているため、ホームページ参照

・１月号編集担当：小橋川聡氏（牧港中央病院）

３．社会活動部

【ちゃーがんじゅう課との意見交換会】

・11/29 打ち合わせ実施

12 月末までに各病院（那覇市立・大浜第一・大浜第二・沖縄協同）にて連絡票を使用して実際に活用（試行期間）し、来月あらためて打ち合わせ予定。

４．渉外

【沖縄県ソーシャルワーカー協議会】

・１２月期代表者会議：１２月７日（金）１８：３０～県総合福祉センター

・第７回沖縄県ソーシャルワーク学会・セミナーの進捗確認

・１２月９日（日）故渡真利源吉先生を偲ぶ会、樋口・當銘参加

・第７回沖縄県ソーシャルワーク学会・セミナー＜幹事団体：企画・運営＞

実行委員会　次回：１２月１８日（火）

実行委員長：宮城幸之祐、

実行委員：ＭＳＷ協会　當銘由香、島袋究、平安周子

ＰＳＷ協会　知念朝子、石川淳

社会福祉士会　上原健二、桑江聡子

ＳＷ協会　川満大、国吉真斗

日時：２月２３日（土）

会場：仮　沖縄国際大学

発表演題申し込み締め切り：１月７日（月）に延期

MSW 協会発表予定者：崎濱（勝山病院）、前濱（那覇市立病院）、比嘉（沖縄赤十字病院）

テーマ「沖縄のソーシャルワーク　過去・未来　」

基調講演：保良昌徳先生　テーマ：同上

トークセッション：テーマ：各団体の立ち上げ時の状況から今後の展望まで（仮）

コーディネーター（川満大）

登壇者：PSW 西銘会長、SW 協会高嶺会長、社会福祉士会石川副会長（予定）、MSW 協会樋口会長

【九州協議会】別紙参照

６．その他：福岡県協会中川美幸氏（早良病院、福岡県立大学大学院在籍）退院支援の研究の為、各県ＭＳＷにアンケート送付に各県の名簿を使用することについて＞＞各県理事会で協議＞＞所属機関名のみの提供で可

【九州おきなわ大会報告】

・大会参加者 171 名、懇親会参加者 105 名

・大会終了後の実行委員会は 12/18 火曜日開催予定→来月理事会にて報告

・沖縄タイムスに大会記事掲載

・大会参加者のアンケート結果は、「大変よかった」「よかった」と好評得られている

・来賓、講師、パネリスト、後援団体へのお礼状は 11 月末に郵送済み

・収支決算について協議：九州協議会の中堅者研修費を大会費予算とすることで承認

・次回くまもと大会実行委員会への資料提供（個人情報除く）について：承認

【入退院支援デザイン事業】

・事例検討研修会/第１回

日時：Ｈ３１年1月７日（月）１３：３０～１６：３０　場所：公立久米島病院（予定）

事例提供：新垣美鈴氏（公立久米島病院　医療ソーシャルワーカー）

事例テーマ「介護者不在の末期がん患者の希望と地域住民の不安のはざまでー
『家にいたい』を叶えるためにー」

講師：富樫八郎氏（沖縄大学客員教授）

当日は沖縄協同病院にて、ハングアウトを使用して意見交換を行う予定

当日久米島ファシリ：樋口・當銘・安慶名

・事例検討研修会/２回目

日時：Ｈ３１年1月２８日（月）13：30～16：30　場所：公立久米島病院（予定）

講師：松本佳子氏（東京大学　高齢者総合研究機構）

内容：在宅医療・介護連携におけるロジックモデルの活用例
～「入退院支援連携」に関する事業展開を中心に～

・３月の入退院支援連携デザイン

日時：Ｈ３１年3月２日（土）・３日（日）　場所：沖縄県総合福祉センター

講師：小原眞知子氏・佐原まち子氏

内容：専門職研修　「退院における実践の自己評価」

日時：Ｈ３１年3月９日（土）　場所：沖縄県総合福祉センター

講師：内田信之氏（あがつま医療アカデミー）、猿渡進平氏（白川病院）

内容：多職種研修Ⅱ　「地域住民への普及啓発～ACP について」

【その他】

・ＰＴ協会県委託事業多職種コンソーシアム実践研修

日時：Ｈ３０年１２月２４日（月・祝）10：00～17：00

場所：沖縄コンベンションセンター

参加：樋口、新垣、當銘、安慶名、望月、嘉手納、秦

【事務局より】

・会計ソフト導入に伴う、出納管理を事務職へ引き継ぎ作業を行う。

・会員名簿管理を、事務職へ引き継ぎ作業を行う。

次回理事会　１月２１日（月）司会：當銘、書記：石郷岡、連絡：安慶名

はいさいワーク

事業所名	地方独立行政法人那覇市立病院
応募資格	・社会福祉士資格保持者（取得見込み者含む） ・Ｗｏｒｄ・Ｅｘｃｅｌの基本操作が可能であること
雇用形態	フルタイム非常勤 医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）：総合相談センターにて勤務
勤務時間	原則 8：30～17：15 月～金、休日：土・日・祝祭日、※早出出勤有り
担当者	那覇市立病院　総合相談センター　樋口
連絡先	TEL：098-884-5111　（内線：8220）

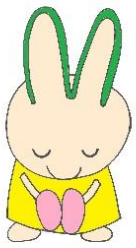
事業所名	国立大学法人　琉球大学医学部付属病院　医療福祉支援センター
応募資格	地域医療連携スタッフ(事務補佐員)
雇用形態	①　フルタイム非常勤 3 名　　②パートタイム非常勤 3 名
勤務時間	①　8:30～17:15　時間外あり(月平均 10 時間)休憩時間 60 分 ②　8:30～15:30　休憩時間 60 分
担当者	琉球大学医学部総務課　人事第二係宛
連絡先	TEL　：　098-895-3331(代表)

事業所名	中部協同病院
応募資格	医療ソーシャルワーカー・社会福祉士
雇用形態	1年間の有期雇用(更新あり)
勤務時間	8:30～17:00　　4週6休制(日祝祭日休み)
担当者	中部協同病院　管理部　担当:大城智志
連絡先	TEL　：　098-938-8828

＊詳しくは沖縄県MSW協会HP参照

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会　ホームページ

http：//www.msw－oaswhs.jp

☆　編集後記　☆

年末のお忙しい中、原稿を快く引き受けていただき本当にありがとうございました。
御年もどうぞよろしくお願い申し上げます。